

## 上水道復興の軌跡～カンボジア首都プノンペン

(カンボジア・プノンペン市上下水道整備計画調査)

### 株式会社東京設計事務所

長年にわたる内戦により、カンボジアでは都市の上水道施設も破壊されて著しく老朽化し、人材不足から維持管理も放置されていた。そのため、水供給能力が内戦前の半分以上に落ち込み、人口の7人に1人しか給水を受けられないという状態にまで市内の給水状況は悪化していた。1993年にJICA発注で、プノンペン市における上水道機能の回復を目的とした開発調査「プノンペン市上水道整備計画」が開始され、そこで提案された個別案件が無償資金協力案件として2003年まで継続して実施された。

本プロジェクトは、内戦の終結以降も混乱状態が続き、緊張を強いられた調査だった。また資料も1950年代までの資料しかなかった。そのなかで2010年を目標とする水道給水量を増加させ、また水質を改善するという水道マスタープランが作られた。このマスタープランに従ってプンプレック浄水場と高架水槽などの改修工事、配水管の整備、プンプレック浄水場の拡張及び改善事業が実施された。本プロジェクトにより、10年前と比べると本浄水場がカバーする給水地域の水道普及率が60%から100%となって郊外まで供給が可能となり、また給水人口が13万から94万人に増加した。水道料金徴収率も大幅に向上し、公社の財務体質も改善した。自助努力支援・人づくり・持続性に配慮し、大きな開発インパクトがあった案件である。また、内戦後の緊迫した状況の中で業務が行われ、内戦終了後の緊急・復興プロジェクトであり、今後の日本の復興支援のモデルとなりうる、貧困層も含めた水道水供給というBHN案件である。既に国家勲章を授与(2003年)されるなど両国を結ぶ「国家プロジェクト」的な案件で日本の国益にも資する。JICAでも「2003年水フォーラム」で採り上げられた。



上水道の全景